
一般論文

出産・育児における援助要請の判断

―場面想定法による実証分析―

Judgement on Help-Seeking in Pregnancy and Child Rearing:
An Empirical Analysis using the Vignette Technique遠 藤 清 香¹、石 川 勝 彦²、倉 澤 一 孝³

Sayaka ENDO, Katsuhiko ISHIKAWA, Kazutaka KURASAWA

概 要

近年、産前産後の母親に対するケアが注目され、行政機関等で産前産後ケアサービスを提供する制度が整えられている。しかし、その利用率は想定ほど高くなく、サービスがそれを必要としている母親に届いていない可能性がある。利用率が上がらない理由の一つとして、自分の抱えている問題や健康状態の深刻度を母親が過少評価するバイアスが存在し、援助要請行動を起こさないことが考えられる。本研究では、出産や育児で生じる「大変な場面」について、援助要請の判断基準にバイアスが生じていないか、生じているとすれば、どのような場面で生じているか、短大生を対象に場面想定法を用いて実証的に検討した。その結果、「大変な場面」の深刻度が高い場合、「自分」の視点から評価すると、援助要請の必要度を過小評価する傾向が示された。

キーワード：産前産後ケア、援助要請行動、場面想定法、因子分析

1. はじめに

近年、出産年齢の高齢化や核家族化の進行に伴って子育て家庭の不安が増大している。これに対応するために、多くの行政機関が産前産後ケアサービスを提供する体制を整備している。たとえば、山梨県は健康科学大学と共同で「産前産後ケアセンター」を平成28年に開設し、宿泊型産後ケアサービスをはじめとする各種サービスを出産前後の母親（一部のサービスは父親にも）提供している。

しかし、産前産後ケアに対するニーズが高いにも関わらず、同センターの利用者は想定より少ない。たとえば、宿泊型ケアサービスでは、その利用率は平成29年1月から7月に山梨県内で出産した母親の約3パーセントにとどまっている（山梨

県産前産後ケアセンター、2017）。出産した母親の約10パーセントが産後うつに罹ることと比較すると、援助を必要とする母親に対してサービスが適切に届いていない可能性がうかがわれる。

公的な福祉サービスは、その必要性を自分で判断し、行政機関に自ら申請してサービスの利用を開始できるものが多い。行政サービスの利用要件を有する人が、申請手続きを自分で行うことによって、そのサービスが初めて利用可能になることを「申請主義」という。申請主義では、援助を必要とする個人がその必要性を自分自身で判断し、援助を要請できることがサービス提供の前提となる。

問題を抱える個人がそれを自分の力で解決できない場合に、他者に援助を求める行動は「援助要請行動」と呼ばれている（DePaulo, 1983）。援助

¹ 山梨学院短期大学保育科

² 山梨学院大学学習・教育開発センター

³ 山梨学院大学経営情報学部

要請行動は問題解決に向けた望ましい行動であると一般的に考えられているが (Jourard, 1971), 逆に, 援助要請行動が問題の解決を困難にすることもある。たとえば, 援助要請の過程で行われる自己開示において, その内容が過度に否定的であり, 開示の方法が不適切であると, 援助者から非受容的な対応を受けて抑うつが高まる (森脇・坂本・丹野, 2002)。また, 過度に援助要請することは社会・文化的に望ましくない特性だと考えられており (Bornstein, 1992), そのような環境の中で援助要請行動を取ることは個人のスティグマに結び付くと考えられる。竹ヶ原 (2014) は援助要請行動に影響を与える要因として, コスト, スキル, スティグマ等を挙げているが, 過去の援助要請で否定的な経験をしたり, また, そのような経験がなくても, 否定的な結果を予期したりすることで, 援助要請行動は抑制されると考えられる。

行政機関が提供する産前産後ケアサービスも申請主義に基づいて提供されるものが多い。たとえば, 山梨県産前産後ケアセンターの宿泊ケアサービスの場合, 市町村の担当窓口申請書を提出し, そこから承認を得て初めて宿泊サービスを利用することができる。出産直後の母親 (あるいは, 父親や親族) が援助要請行動 (申請手続き) を取ることは容易なことではない。特に, 出産や子育てに関する悩みや困難は多岐にわたり, 母親自身が自分に対するケアの必要性を判断するのは難しい。妊娠婦の中には, 産前産後ケアサービスを提供する制度の必要性は認めるが, 自分自身が抱えている問題が深刻で心身の健康状態が非常に悪い場合であっても, 援助要請行動を起こさない人もいる。Taylor (1989) は健康状態に対する自己認識にはバイアス (歪み) があると述べており, 産前産後ケアサービスに関しても, 自分自身が援助要請行動を起こす判断基準にバイアスが生じている可能性がある。

患者等の医療行動をモデル化したTranstheoretical model (Prochaska & Diclemente, 2005) によると, 人々が行動変容を起こすには, 無関心→熟考期 (関心期) →準備期→実行期→維持期の5段階を経る。もし母親が自分の抱えている問題の深刻度を過小評価しているならば, 客観的には援助が必要であるにも関わらず, 無関心ないしは

熟考期 (関心期) から準備期に移行しないと考えられる。このような場合, 問題を抱える母親を準備期の段階に移行させるような政策的介入の余地があるといえる。特に, 申請主義に基づく制度設計においては, ケアサービスを必要とする対象者にそれを提供する側からより積極的にアプローチする必要がある。

本研究では, 出産・子育ての大変さに対する援助要請の判断基準にバイアスが生じているか, もし生じているとすれば, どのような場面で生じているか, 場面想定法を用いてを検討する。出産や育児で起こる「大変な場面」を2グループに提示し, 1つ目のグループには「自分が母親だったら援助を要請するか」, 2つ目のグループには「身近な人に起こったら援助の要請を促すか」について, 5件法で判断してもらう。複数の場面について判断にバイアスが生じているか検定し, また, バイアスが生じる場面を因子分析によって特定する。このように, 同じ場面を「自分」と「身近な人」という異なるフレームで評価することによって, 実際の当事者だけでなく, 人々が潜在的に持っているバイアスを記述することが本研究の目的である。

2. 方法

出産・育児で「大変な場面」を書籍・メディア (沼山・三浦, 2017; 沖田・君影草, 2015; 明橋, 2010; 東村, 2008, 2009; ムーニーCM; フクチ, 2013; 坂井, 2014) から抽出し, 98の場面として文章化した (Table 1 及び Table 2 を参照)。それらについて, 2グループの調査対象者に回答を求めた。1つ目のグループには「あなたがこれらのシチュエーションに直面した場合, 誰かに援助を求めるか」について, 「5: 援助を求める」から「1: 援助を求めない」の5件法で回答を求めた (「援助要請調査」)。2つめのグループには, 同じ98の場面に対して, 「身近な方がこれらのシチュエーションに直面した場合, その身近な方に対して「誰かに援助を求めなさい」と言いますか」について, 「5: 援助を求めるよう言う」から「1: 求めるよう言わない」の5件法で回答を求めた (「援助要請提案調査」)。

また, これらの調査対象者とは別のグループに,

98の場面の深刻度について「5：とても負担だ」から「1：まったく負担でない」の5件法で回答を求めた（「深刻度調査」）。深刻度調査からの回答は、同類の問題が生じている場面でも、深刻度が異なれば援助要請に関する判断は異なるとの想定で、調査に使われる文章の「深刻度」を統制するために用いる。

調査は、2018年11月に、山梨学院短期大学保育科1年生・2年生293名、専攻科生37名（計330名）を対象に行った。授業の終了後15分を利用し、自記式の調査票の配布・回収を行った。「援助要請調査」と「援助要請提案調査」については、1年生と2年生をランダムに2つのグループに分けて回答を求めた。「深刻度調査」は専攻科生を対象に行った。回収数は「援助要請調査」（150票）と「援助要請提案調査」（143票）を併せて293票（男性16名、女性277名）だった（回収率100%）。「深刻度調査」は37票中34票回収した（回収率92.0%）。

質問紙には匿名性が保証されること、回答は任意で協力しないことによる不利益は一切ないことが明記された。分析には回収した全てのデータを用いた。ただ一部未回答の項目を含む者がいるため、分析によって有効回答票数が1～3名前後することがある。

3. 結果

(1) 回答者の属性

援助要請調査と援助要請提案調査の回答者の年齢、性別はTable 1に整理した。多くが女性であり、年齢では19歳がボリュームゾーンであった。

Table.1 回答者の年齢と性別

	18歳	19歳	20歳	それ以外	合計
女性	43	145	87	2	277
男性	3	6	5	2	16
合計	46	151	92	4	293

(2) 深刻度調査

34名の回答者から、98項目（以下、因子分析の用語法に従い、文章化した「大変な場面」を「項目」と呼ぶ）について5件法で深刻度の評価を得た。98項目に対する深刻度の評定がどのようにばらついたかを確認する。それぞれの項目について

平均をとり、ヒストグラムを作成した（Figure.1）。98項目の平均値の平均値は3.70（SD=0.51）だった。中央値は3.72だった。

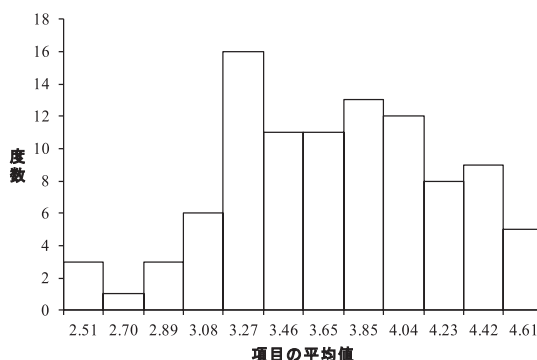


Figure.1 深刻度に関する項目平均の分布

以下の分析では、深刻度の高い上位49項目を対象に、援助要請調査・援助要請提案調査のスコアを用いて因子分析を行い、因子構造を確認する。加えて、深刻度の低い下位49項目を対象に同様に援助要請調査・援助要請提案調査のスコアを用いて因子分析を行い、因子構造を確認する。つまり深刻度をコントロールしたうえで、援助要請・援助要請提案の対象領域（因子構造）を探索する。援助要請・援助要請提案が強く求められる領域（因子）もあれば、援助要請・援助要請提案が求められない領域（因子）も存在すると想定されるが、そうした差異と深刻度との関係を確認し、深刻度が異なることで援助要請・援助要請提案の判断にどのようなバイアスが生じるのか解析する。

(3-1) 深刻度が高い項目群の因子分析

深刻度が高い49項目を対象に平行分析を行ったところ、対角MSCは12因子、MAPは4因子を提案した。提案された因子数を指定して最小二乗法（プロマックス回転）を繰り返した。因子の解釈可能性を考慮し8因子構造をベースとした。すべての因子において.30以下の因子負荷量を示す項目を削除し因子分析を繰り返した結果、Table.2の因子パターンを得た。

Table.2 深刻度が高い項目群の因子パターン（最小二乗法，プロマックス回転）

Item	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	F8	共通性
90保育園で遊んでいるとき、いやなことがあると子どもが同級生を嘔む	.70	-.19	.05	.34	-.10	.05	-.04	-.17	.49
91育児相談、発達相談に訪れた際の行政（子育て支援センター等）の対応があまりに冷たい	.54	-.20	-.01	.08	-.05	.10	.06	.22	.38
58最近は子どものイヤイヤがひどい。父親はイヤイヤ状態の子どもと相手をするのが苦手で、休日も一人で出かけてしまう	.50	.09	.11	-.01	.06	.15	-.02	-.06	.46
61保育園、幼稚園の入園が決まらず、子どもも自分も先行きが見えない	.49	.10	.00	.00	-.20	-.03	.05	.34	.49
52育児に悩み子育て方法をネットで検索しみつけた子育てをためすが、どれもうまくいかない	.47	.14	-.09	-.12	.12	.11	-.01	.01	.39
41自分だけでなく夫も寝不足で共倒れになる	.45	.32	-.07	-.11	-.03	-.05	.26	-.16	.50
56産後の抜け毛がひどく自分の身なりにコンプレックスを感じる	.45	.11	-.13	-.05	.30	-.02	-.04	.00	.38
95赤ちゃんが手術を受けることになり入院した。自分は仕事があるので、看護師に任せて病院を後にした	.34	.04	.23	-.03	-.17	-.09	.09	.11	.26
19赤ちゃんが泣いて困っているのに、隣にいるだんなさんは「大丈夫？」というだけで手を貸してくれない	-.05	.54	-.05	.40	-.11	.05	-.01	.04	.50
48自分が「うまくできていない」と気に病んでいることを夫に指摘される	.11	.53	-.05	-.09	.22	.03	-.18	.02	.41
13赤ちゃんの着替えやオムツ用品が散乱し、片付いていない部屋でさらに赤ちゃんが泣く	-.03	.50	-.07	.19	.13	.03	-.05	-.03	.33
40家計のやりくりが難しいので保育園に子どもを預けて働き出たいが、夫に反対される	-.01	.48	.07	-.10	.13	.10	.13	-.05	.40
17不慮の事故により自分がケガをしてしまい、普通の家事・育児がままならない	.02	.44	.04	.02	-.25	-.04	.20	.18	.39
45子どもが保育所でいじめにあい、友達の保護者からはよそよそしくされる	.28	.36	-.09	-.02	.13	-.14	.22	.01	.41
83職場の同僚主催のホームパーティーに子連れで参加した際、いい子にしてほしい場面なのに、子どもの機嫌が最悪である	-.09	-.02	.68	-.05	-.04	.17	.09	-.01	.48
97同居している義父母がご飯前に子どもにお菓子を与える	.00	-.11	.60	.12	.12	-.07	-.06	.07	.41
76寝かしつけ中に子どもがふざけて口に指を突っ込んで大量に吐いてしまい、布団やパジャマが汚れお風呂や洗濯が必要になる	-.11	.02	.47	.02	.07	.10	.07	.05	.29
96夫が子育てについて意見もなく否定も肯定もしない	.29	.30	.38	.10	-.01	-.17	-.16	-.08	.46
78スーパーの買い物の途中、子どもがぐずるので「静かにしなさい」と叱るが、かんしゃくをおこしさらに大騒ぎする	.10	-.04	.33	.04	.19	.11	-.02	-.04	.27
85子どもが公園で走り回って遊んでいる最中、道路に飛び出そうとする	.07	.03	.33	.32	.09	-.11	-.05	-.02	.32
67ドラッグストアがオムツを取り扱っていないので、何店舗も回らないといけない	.26	-.08	.31	.01	.14	-.11	-.03	.07	.24
9 夫が子どもと積極的に遊ばず、遊んでいる時もボーッと見ている	.05	.18	-.06	.59	-.04	-.02	-.24	.02	.34
7 買物に行くと、子どもが床を転げまわって欲しいものをねだる	.01	-.11	.06	.59	.11	-.03	-.14	.09	.37
25子どもが「ばか！」や「このやろう！」など汚い言葉を使う	-.08	-.06	.01	.54	.33	-.03	.18	.06	.55
37友達と遊んでいるとき、自分の子どもが、気に入らない友達を叩いたり、突き飛ばしたりする	.12	-.06	.02	.47	.20	-.02	.29	-.07	.54
15レストランのテーブルで子どもがお皿をひっくり返す	-.09	.04	.25	.46	-.17	.12	.09	-.12	.42
2 たまたま機嫌の悪い子どもを見た母（おばあちゃん）が、冗談のつもりであるが子どもの人格を否定するような発言をする	-.04	.16	-.05	.34	.30	-.15	-.05	.17	.29
65三度の食事をほとんど取らず、おやつばかり食べている	.12	.16	.07	.33	-.03	.07	.03	.04	.30
51つわりのとき、特定の匂い（男性の体臭など）に耐えられない	.18	.06	.21	-.30	.22	.09	.00	.16	.33
30子どもが食物アレルギーだが、ママ友から「妊娠中に偏食したの？」などと言われる	-.05	.04	.15	.06	.68	-.11	.08	.02	.54
33自分が言ったことに対して子どもが口答えしたり、「ママ嫌い！」と言いがながら叩いたりしてくる	.10	-.02	-.09	.22	.45	.11	.04	-.06	.37
32トイレトレーニングがうまくいかず、何度もおもらしをする孫を祖母が叱る。「あなたが甘やかすから！」といわれる。	-.13	.31	.08	.19	.40	.13	.02	-.07	.49
50離婚後、子どもに「どうしてお父さんはいないの？」と聞かれる	-.01	.05	.12	-.04	.39	.10	.06	.02	.26
53仕事で疲れた状態で寝かしつけるが、絵本を読んでも、抱っこしても、何時間も寝てくれない	.03	.09	.14	-.03	-.03	.70	-.07	.02	.59
54赤ちゃんの泣き声を聞くだけで、「ああ、またか」と体がこわばる	.33	-.05	-.22	.03	.12	.49	.02	.11	.53
57赤ちゃんを寝かせつけようと1時間も添い寝しているが全然寝てくれない	.21	.09	.19	.00	.06	.36	-.09	.04	.41
27障害のある兄弟のことで周りの友達からいじめられる	.05	-.07	.01	-.01	.16	-.11	.68	.09	.50
26寄り添ってくれる診療機関が見つからない	.07	.13	.02	-.16	.00	.03	.58	-.04	.42
60保育園などの施設が自分の子どもに理解がないように感じる	.14	-.08	.08	-.03	.08	.03	.01	.64	.51
18誰かに子育ての相談をしたが、相手からのアドバイスに対して、逆に自分が責められているような気分になる	-.12	.23	.05	.17	.05	.05	.00	.37	.31
20子どもが通っている幼稚園の先生の叱り方が厳しすぎると感じる	-.02	.20	-.12	.26	-.10	.14	.02	.32	.28
因子寄与	5.78	5.39	4.26	4.03	3.92	3.73	3.28	2.28	

第1因子としてまとまった項目は「保育園で遊んでいるとき、いやなことがあると子どもが同級生を噛む」「育児相談、発達相談に訪れた際の行政（子育て支援センター等）の対応があまりに冷たい」「最近はお子さんのイヤイヤがひどい。父親はイヤイヤ状態のお子さんの相手をするのが苦手、休日も一人で出かけてしまう」「保育園、幼稚園の入園が決まらず、子どもも自分も先行きが見えない」であった。子育てを進めるうえで出会う困難な場面が広くまとまったため「困難感」と命名した。

第2因子には「赤ちゃんが泣いて困っているのに、隣にいたんだなさんは『大丈夫？』というだけで手を貸してくれない」「自分が『うまくできていない』と気に病んでいることを夫に指摘される」「赤ちゃんの着替えやオムツ用品が散乱し、片付いていない部屋でさらに赤ちゃんが泣く」など、子育て中の孤立感を想像させる場面に関する項目がまとまり、「孤立感」と命名した。

第3因子には「職場の同僚主催のホームパーティーに子連れで参加した際、いい子にしてほしい場面なのに、子どもの機嫌が悪化する」「同居している義父母がご飯前に子どもにお菓子を与える」「寝かしつけ中に子どもがふざけて口に指を突っ込んで大量に吐いてしまい、布団やパジャマが汚れお風呂や洗濯が必要になる」など突如生じるトラブル場面がまとまったため「突発的トラブル」と命名した。

第4因子は「買物に行くと、子どもが床を転げまわって欲しいものをねだる」「子どもが『ばか！』や『このやろう！』など汚い言葉を使う」「友達と遊んでいるとき、自分の子どもが、気に入らない友達を叩いたり、突き飛ばしたりする」など子どもが社会的に望ましくない行動を示すことを表す項目がまとまった。これを「子どもの非社会的行動」と命名した。

第5因子は「子どもが食物アレルギーだが、ママ友から『妊娠中に偏食したの？』などと言われる」「自分が言ったことに対して子どもが口答えしたり、『ママ嫌い！』と言いながら叩いたりしてくる」「トイレトレーニングがうまくいかず、何度もおもらしをする孫を祖母が叱る。『あなたが甘やかすから！』といわれる」など、母親が周

囲からなじるような言葉をかけられることを中心とした項目がまとまったため「個人攻撃」と命名した。

第6因子は「仕事で疲れた状態で寝かしつけるが、絵本を読んでも、抱っこしても、何時間も寝てくれない」「赤ちゃんの泣き声を聞くだけで、『ああ、またか』と体がこわばる」など、長時間の寝かしつけやそれに伴って生じる泣きに関連する項目がまとまったため「寝かしつけ」と命名した。

第7因子は「障がいのある兄弟のことで周りの友達からいじめられる」「寄り添ってくれる診療機関が見つからない」の2項目がまとまったため「障がい児支援困難」と命名した。

第8因子は「保育園などの施設が自分の子どもに理解がないように感じる」「誰かに子育ての相談をしたが、相手からのアドバイスに対して、逆に自分が責められているような気分になる」など、育児支援施設や相談相手から非難されることを示す項目がまとまったため「育児支援元の無理解」と命名した。

（3-2）深刻度が高い項目群に対する「援助要請」と「援助要請提案」の比較

同じ育児場面に対し、自分が当事者である場合に援助を要請する程度（「援助要請」）と身近な他者が当事者である場合に援助を求めるよう提案する程度（「援助要請提案」）にはどのような差がみられるか確認する。

検定の結果を確認するに先立ち、援助要請および援助要請提案のスコアが、深刻度のスコアと適切な関連を示すか確認する。各変数の関連を確認したところ、深刻度が高い因子ほど、援助要請・援助要請提案ともにスコアが高まることがわかった（Figure.2）。深刻度との順位相関係数は援助要請で $\rho = .98$ $p < .05$ 、援助要請提案で $\rho = .88$ $p < .01$ だった。このことは測定の基準関連妥当性、具体的には収束的妥当性を示しているといえる。

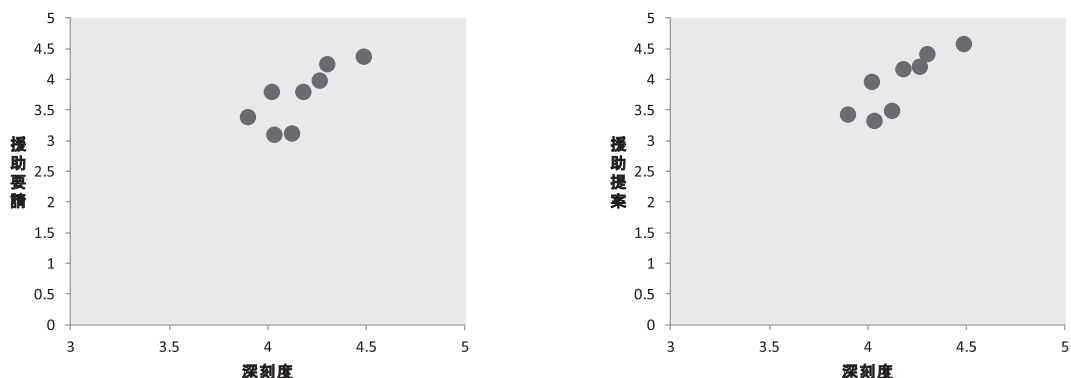


Figure.2 深刻度が高い項目群における深刻度と援助要請・援助要請提案スコアの関係
(左：援助要請；右：援助要請提案)

8 因子の得点をそれぞれ従属変数，援助要請/援助要請提案を独立変数とする t 検定の結果を

Table.3にまとめ，平均値をFigure.3に示す。

Table.3 深刻度が高い項目群 8 因子の得点をそれぞれ従属変数，援助要請/援助要請提案を独立変数とする t 検定

	身近な他人		自分		d	t	df	p	
	平均値	SD	平均値	SD					
困難感	4.40	0.49	4.25	0.58	.28	2.38	290	.018	**
孤立感	4.20	0.57	3.97	0.70	.37	3.13	289	.002	**
突発的トラブル	3.42	0.78	3.38	0.71	.05	0.44	290	.662	
子どもの非社会的行動	3.33	0.70	3.10	0.68	.33	2.79	287	.006	*
個人攻撃	3.48	0.84	3.12	0.91	.41	3.54	291	.000	**
寝かしつけ	3.96	0.75	3.79	0.92	.20	1.71	291	.088	+
障がい児支援困難	4.58	0.59	4.38	0.72	.30	2.59	290	.010	*
育児支援元の無理解	4.17	0.69	3.80	0.73	.52	4.46	289	.000	**

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

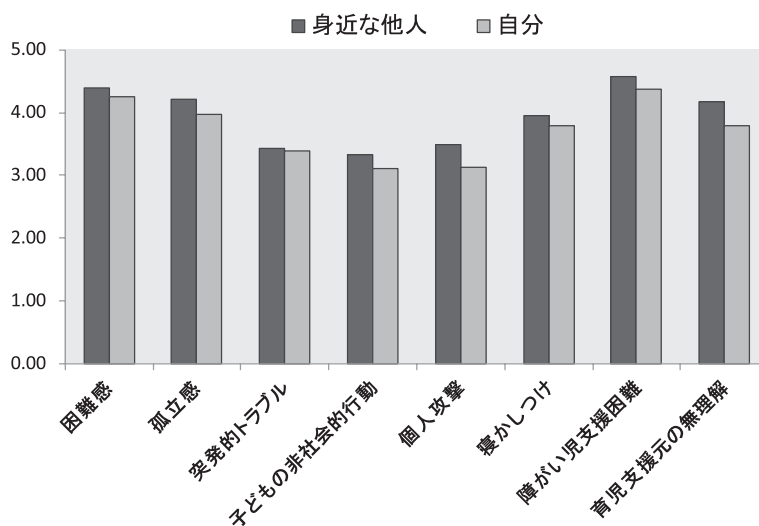


Figure.3 深刻度が高い項目群 8 因子ごとの援助要請/援助要請提案スコアの平均値の比較

t 検定の結果、8因子中6因子で独立変数の効果が有意だった ($p < .05$)。6項目はいずれもスコアは援助要請提案が援助要請を上回った。このことから、同一の育児場面に直面した場合、身近な他者が当事者である場合には援助を求めるよう提案を行うが、同じ場面に自分が直面した場合には同程度には援助要請を行わない、援助を求める強度が低減することがわかった。なお援助要請と援助要請提案に差が見られなかったのは「突発的トラブル」および「寝かしつけ」だった。

(4-1) 深刻度が低い項目群の因子分析

深刻度が下位の49項目に対し平行分析を実行したところ、対角SMCが12因子、MAPが4因子を提案した。提案された因子数を指定して最小二乗法（プロマックス回転）を繰り返した。因子の解釈可能性を考慮し7因子構造をベースとした。すべての因子で.30以下の因子負荷量を示す項目を削除し因子分析を繰り返した結果、Table.4の因子パターンを得た。

Table.4 深刻度が低い項目群の因子パターン（最小二乗法、プロマックス回転）

Item	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	共通性
34スーパーなどで買物をしている時、子どもが隙あらば商品に触る	.78	-.03	.01	-.03	-.23	.05	.10	.52
35おやつは決まった時間にと約束しているが、子どもが隠れてお菓子を食べる	.63	.13	-.10	-.08	-.11	.11	.12	.42
43公園で友達と遊んでいるとき、子どもが遊具を独占してしまう	.58	.17	-.13	.10	.04	-.06	.18	.55
46月齢の低い子と遊んだ日に子どもが赤ちゃんがえりする	.52	.01	.10	-.06	.10	-.06	.08	.35
31家にいる時も買い出し先でも、子どもが常にだっこを要求する	.47	.13	.24	.01	-.06	.07	-.16	.49
47食事中にご飯をこねるなど、何度注意しても同じ悪さを繰り返す	.47	.04	.16	.05	.11	.07	-.12	.46
75上の子が下の子に対して威張った言動をしたり、命令したりする	.40	.34	-.02	.02	.07	-.02	.06	.47
28子どもがハイハイで家中を動き回り、部屋を散らかしに散らかす	.32	.16	-.04	.26	.05	-.05	-.07	.36
38車で移動しているとき、子どもがチャイルドシートから出ようとする	.30	.30	-.02	-.02	-.10	.20	.15	.36
69激しい痛みを伴った出産後にもかかわらず、義母が自分を差し置いて子どもを抱くなど、いいとこ取りをする	.02	.62	-.14	-.10	.07	.00	.05	.33
70子どもが隠れてお菓子を食べているのを発見して注意するが、「お菓子食べてない」と嘘をつく	.16	.62	-.11	.08	.19	-.02	-.02	.58
89おもちゃで遊んでもすぐ飽きるので、次々と新しいおもちゃを出し、部屋が散らかる	.17	.59	.06	.01	.02	-.11	-.02	.50
74ノーマイクのまま子どもとお散歩にでかけ、途中で、同じ月齢の子を連れてきれいな笑顔のお母さんとすれ違い、自分がダメな気がしてしまう	.10	.58	.04	-.05	-.07	.09	-.16	.42
77自分が出かけるとき、子どもの世話を義母に任せるが、義母が勝手におやつを与える	.13	.57	-.13	-.17	.02	.03	.06	.32
84いつも一緒にいるママの言うことは聞かないが、たまに会うパパの言うことは聞く	-.10	.49	.05	.00	.19	.02	-.05	.30
29仕事をやめて育児ばかりしていると、自分が周りから取り残されている感じがする	-.23	.42	.18	.05	.01	.16	.14	.32
55子どもがゴミを床に捨てたとき、自分は「ゴミ箱にポイして」と注意するようにしているが、父親は甘くて叱らない	.18	.38	.03	.10	-.04	.00	.06	.32
62子どもがミルクやジュースなどの液体を床にこぼすので掃除に追われる	.23	.34	.29	.00	-.08	-.28	.04	.39
68余裕がなく美容院にも行けない	-.25	.32	.27	.07	-.15	.13	.17	.27
73子どもが歯磨きを嫌がり、逃げ惑う	.17	.32	.19	.14	.13	-.04	.03	.47
71仕事の締切が近く大変忙しいときに、「一緒に遊ぼう」とかまってほしいがる	.03	-.08	.78	-.02	-.14	-.15	.11	.46
80家にいる時、子どもが一人で遊ばず、常に母親（自分）と遊ぼうとするため家事ができない	.25	-.05	.55	-.15	-.04	.13	-.07	.44
82毎日2時間おきに授乳しなければならず、心身ともに疲れる	-.20	.23	.51	.06	.07	.04	-.07	.39
44卒乳の時期について育児書ごとく書いてあることが異なり悩む	-.06	-.11	.48	.02	.20	.03	.26	.40
24下ろすと赤ちゃんが泣くので、ずっと抱っこしており、肩や腰が痛い	.00	.01	.44	.09	-.09	.15	-.13	.26
49保育園などの施設に子どもがなじんでくれない	-.01	-.18	.43	.02	.09	.12	.32	.36
79哺乳瓶に慣れさせたいと思っているが、嫌がって全然飲んでくれない	.15	.03	.42	-.02	.23	-.16	.04	.39
94ゆっくり昼食をとる暇もなく、赤ちゃんを抱きながら、立ったままで、冷凍食品のおにぎりをチンして食べる	-.05	.30	.33	-.01	-.06	.16	-.04	.32
5 休日の朝5時半、まだ起きる時間には早いのに子どもが起きてしまい、「遊ぼう!」と起こしてくる	-.08	.04	.03	.65	-.02	-.08	-.01	.40
3 スプーンで食べよう、と何回いっても、子どもが食べ物を手づかみする	-.02	-.25	.11	.52	.16	-.06	.02	.30
4 幼稚園や公園などで遊んでいるとき、子どもが他の子どもに意地悪をする	.28	-.18	-.13	.50	-.11	.04	.03	.37
16脱いだ服やおもちゃ、工作などがいつも家中に散乱している	.15	.14	.00	.40	-.18	.16	.06	.37
6 保育園などの施設から、子どもの行動について気になる指摘をうける	-.07	.03	-.18	.40	.04	.33	-.05	.22

Item	F1	F2	F3	F4	F5	F6	F7	共通性
11泣いている赤ちゃん和家人に2人きり、静かな部屋で赤ちゃんの泣き声だけが大きい	-.14	.10	.15	.39	.04	.15	-.01	.23
12夫が「子どもの面倒を見るよ」と言いながら、「何やればいいの?」と聞いてくる	.08	.26	-.08	.35	-.05	.00	.21	.35
87断乳が上手くいかず、周りの子と比べて卒乳が遅い	-.09	.21	-.08	-.11	.78	.04	.04	.61
86周りと比べて自分の子どもの言葉の発達が遅く、なかなか言葉を覚えない	-.18	.20	-.06	-.10	.70	.06	-.05	.46
10周りの子どもはオムツが取れているのに、自分の子どもはまだ取れない	-.02	-.18	-.01	.23	.54	.04	.05	.36
23トイレトレーニングをはじめたが、部屋で何度もおもらしをする。悪びれた様子はない	.33	-.23	.01	.19	.34	.15	-.15	.40
22子どもが理由も言わず「幼稚園に行きたくない」と言う	.13	.06	.12	.00	.31	.07	-.05	.25
92子どもは家では普通に会話をするが、保育園で先生や友達と一言も話さない	.09	.04	.09	-.11	.12	.49	.11	.41
98子どもがおとなしく、何事にも受身で、覇気(はき)がないように見える	-.02	.21	-.09	-.05	.26	.40	.02	.33
81お友達と遊ぶのが苦手で集団になじめない	.29	-.17	.23	-.13	.11	.38	.06	.40
8仕事や家事で忙しくて子どもの相手ができず、子どもがテレビばかり見ている	.02	.02	.08	.19	-.08	.35	-.18	.20
39夫が子育てをする際に、無駄に凝ったことを次々とする	.19	.14	.04	-.01	-.05	-.04	.51	.36
21習い事は大きくなってからと決めていたが、周りの友達が始めたのを知る	.26	-.09	-.10	.14	.24	-.01	.32	.31
因子寄与	6.921	6.777	5.692	4.343	4.026	2.726	1.376	

第1因子には「スーパーなどで買物をしている時、子どもが隙あらば商品に触る」「おやつは決まった時間にと約束しているが、子どもが隠れてお菓子を食べる」など子どもには生じがちなよくある子どもの行動を中心に項目がまとまったため、「子どものいたずら」と命名した。

第2因子は「激しい痛みを伴った出産後にもかかわらず、義母が自分を差し置いて子どもを抱くなど、いいところ取りをする」「ノーメイクのまま子どもとお散歩にでかけ、途中で、同じ月齢の子を連れたきれいな笑顔のお母さんとすれ違い、自分がダメな気がしてしまう」「自分が出かけるとき、子どもの世話を義母に任せるが、義母が勝手におやつを与える」など周囲の人々の行為に由来する困りごとを中心に項目がまとまったため「隣人の行動」と命名した。

第3因子には「仕事の締切が近く大変忙しいときに、『一緒に遊ぼう』とかまってほしがる」「家にいる時、子どもが一人で遊ばず、常に母親(自分)と遊ぼうとするため家事ができない」などの項目がまとまったため「子どもに付き切り」と命名した。

第4因子には「休日の朝5時半、まだ起きる時間には早いのに子どもが起きてしまい、『遊ぼう!』と起こしてくる」「保育園などの施設から、子どもの行動について気になる指摘をうける」などの項目がまとまった。これを「子育ての徒労感」と命名した。

第5因子には「断乳が上手くいかず、周りの子

と比べて卒乳が遅い」「周りと比べて自分の子どもの言葉の発達が遅く、なかなか言葉を覚えない」などの項目がまとまったため「発達の遅れへの懸念」と命名した。

第6因子には「子どもは家では普通に会話をするが、保育園で先生や友達と一言も話さない」「お友達と遊ぶのが苦手で集団になじめない」などの項目がまとまったため「集団不適應の懸念」と命名した。

第7因子には「夫が子育てをする際に、無駄に凝ったことを次々とする」などの項目がまとまった。これを「ちょっとした苛立ち」と命名した。

(4-2) 深刻度が低い項目群に対する「援助要請」と「援助要請提案」の比較

援助要請および援助要請提案のスコアが、深刻度のスコアと適切な関連を示すか確認する。各変数の相関係数を確認したところ、援助要請・援助要請提案ともに深刻度とは正の相関を示した(Figure.4)。深刻度との順位相関係数は援助要請で $\rho=.89$ $p<.05$, 援助要請提案で $\rho=.71$ $p=.07$ だった。これらのことから、深刻度が高い因子ほど援助が必要であると認識されていると言える。このことは測定の基準関連妥当性、収束的妥当性を示しているといえる。

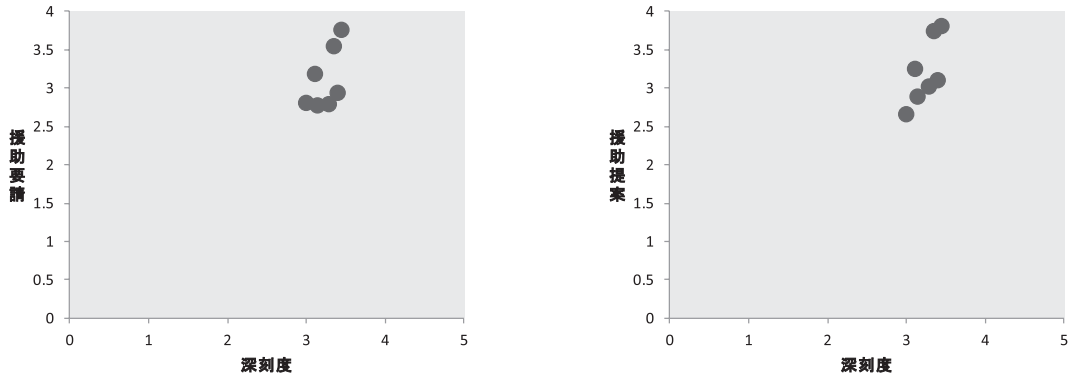


Figure.4 深深度が低い項目群における深深度と援助要請・援助要請提案スコアの関係
(左：援助要請，右：援助要請提案)

7 因子の得点をそれぞれ従属変数，援助要請/援助要請提案を独立変数とする t 検定の結果を Table.5 にまとめるとともに，平均値を Figure.5 に示す。検定結果を確認すると，7 因子中「子

どもに付きっきり」「子育ての徒労感」のみ独立変数の主効果が有意で ($p < .05$)，平均値は援助要請提案が援助要請を上回った。

Table.5 深深度が低い項目群 7 因子の得点をそれぞれ従属変数，援助要請/援助要請提案を独立変数とする t 検定

	身近な他人		自分		d	t	df	p	
	平均値	SD	平均値	SD					
子どものいたずら	2.89	0.79	2.77	0.78	0.14	1.22	290	.223	
隣人の行動	3.10	0.72	2.94	0.71	0.23	1.95	289	.053	+
子どもに付きっきり	3.74	0.62	3.55	0.71	0.29	2.47	291	.014	*
子育ての徒労感	3.02	0.73	2.78	0.73	0.33	2.81	287	.005	**
発達の遅れへの懸念	3.26	0.83	3.19	0.82	0.08	0.66	289	.510	
集団不適応の懸念	3.80	0.64	3.76	0.75	0.06	0.51	289	.610	
ちょっとした苛立ち	2.66	0.84	2.81	0.94	-0.17	-1.48	291	.140	

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

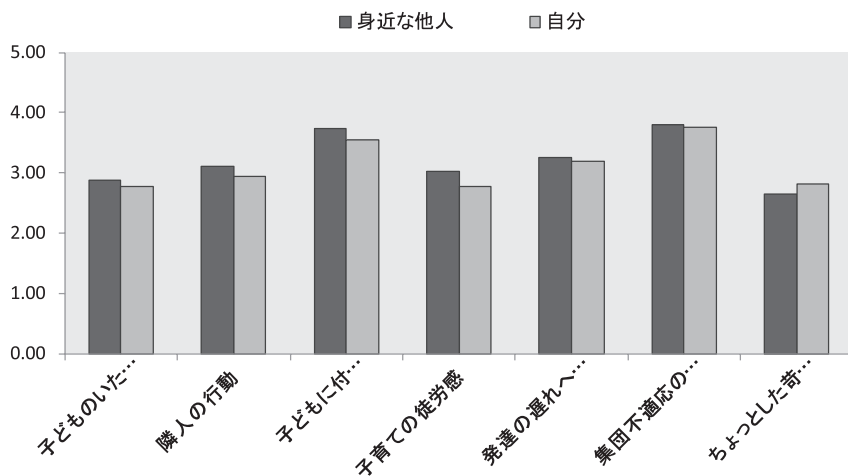


Figure.5 深深度が低い項目群 7 因子ごとの援助要請/援助要請提案スコアの平均値の比較

4. 考察

本研究は、出産と育児に関わる「大変な場面」における、援助要請の判断基準に含まれるバイアスを記述することを目的とした。

具体的には、援助を必要としている個人が自分である場合を「援助要請」、援助を必要としている個人が自分ではなく身近な他人である場合を「援助要請提案」と命名し、どのような領域（因子）に対し、援助要請・援助要請提案がどの程度認識されるか、その程度の違いに注目し調査分析を行った。

因子分析の結果、98項目中、深刻度の高い上位49項目から8因子、深刻度の低い下位49項目から7因子が抽出された。抽出された因子を対象に援助要請及び援助要請提案のスコアが対応する因子の深刻度と相関するか確認したところ、深刻度の高い因子も低い因子も共に援助要請及び援助要請提案と相関関係を示した。このことから測定は収束的妥当性を備えていると考えられる。

深刻度によって援助要請と援助要請提案に差が見られるか確認したところ、深刻度が高い因子の場合、8因子中6因子で援助要請提案の平均値が援助要請の平均値を上回る関係性が見られたのに対し、深刻度が低い因子の場合、その関係がみられたのは7因子中2因子にとどまった。

これらの結果は、他者が当該因子に直面している場合には援助の必要性を認識しているにも関わらず、自分が当事者である場合には援助の必要の認知が低減することを示している。つまり出産・子育て状況の大変さを母親が過小評価する可能性があることを示している。すなわち深刻な状況に直面している場合、状況の重篤性を過小評価するため、当事者は積極的な援助要請行動を取らない場合があると考えられる。

本研究の意義は、回答者が母親ではない、ということから導かれる。本研究の回答者は現状では出産・育児の当事者ではなくこれから直面していく若い大学生であった。こうしたサンプルにおいて、問題が深刻であるほど、それが自己の問題である場合には援助要請を抑えるバイアスが観察された。すなわち、出産・育児に関して想定される大変さに対して、実際の当事者でなくても、「自

分」というフレームで評価する場合には、援助要請の必要性を過小評価するバイアスが潜在的に存在することが示された。

実践的なインプリケーションとして、産前産後ケアサービスを提供する際は、本研究が明らかにしたバイアスを前提として、ケアを受けるべき潜在的な利用者に対して、適切な時期に適切なケアが受けられるよう、介入を工夫する必要があるだろう。

本研究で得られ結果は、母親ではない回答者に対し場面想定法を用いて検討した結果であるため、実際の母親が同様に援助要請に関するバイアスを持っていることを直接示すものではない。しかしながら、母親を対象にした場合には本研究で示されたようなバイアスは再現されない可能性がある一方、出産育児による多忙等が原因となりより強い形で再現される可能性もある。この点を明らかにすることは今後の課題である。

付記

本研究は科学研究費（研究課題：18K18614）の助成を受けて実施された。

参考文献

- 明橋大二. (2010). ハッピー子育て相談室一心がずっと軽くなる. 家の光協会.
- Bornstein, R. F. (1992). The dependent personality: Developmental, social, and clinical perspectives. *Psychological bulletin*, 112(1), 3.
- DePaulo, B. M. (1983). Perspectives on help-seeking. *New directions in helping*, 2, 3-12.
- フクチマミ. (2013). マンガで読む 育児のお悩み解決BOOK. 主婦の友社.
- 東村アキコ. (2008). ママはテンパリスト(1). 集英社.
- 東村アキコ. (2009). ママはテンパリスト(2). 集英社.
- Jourard, S. M., & Jourard, S. M. (1971). The transparent self (pp. 133-152). New York: Van Nostrand Reinhold.
- ムーニーCM <https://www.youtube.com/watch?v=3XzrzfgMP1c> (2018年10月23日閲覧)
- 森脇愛子, 坂本真士, & 丹野義彦. (2002). 大学生における自己開示方法および被開示者の反応の尺度作成の試み. *性格心理学研究*, 11(1), 12-23.

沼山博・三浦主博. (2017). 子どもとかかわる人のための心理学. 萌文書林.

沖田X華・君影草. (2015). はざまのコドモ - 息子は知的ボーダーで発達障害児. ふんか社.

Prochaska, J. O., & DiClemente, C. C. (2005). The transtheoretical approach. *Handbook of psychotherapy integration*, 2, 147-171.

坂井恵里. (2014). 妊娠17ヵ月！ - 40代で母になる！. 講談社.

竹ヶ原靖子. (2014). 援助要請行動の研究動向と今後の展望: 援助要請者と援助者の相互作用の観点から. 東北大学大学院教育学研究科研究年報, 62(2), 167-184.

Taylor, S. E. (1989). *Positive illusions: Creative self-deception and the healthy mind*. New York, NY, US: Basic Books.

山梨県産前産後ケアセンター. (2017). 現況報告.

